

神戸大が美容医療講座

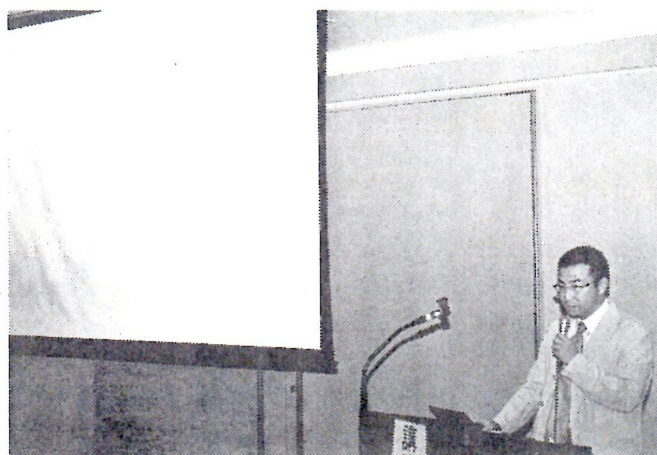
経験ある医師選び重要

科学的根拠に基づく美容医療をテーマにした市民講座が、神戸市中央区の神戸大医学部神縁会館で開かれた。しわや女性の薄毛などに対する安全で有効な美容医療について、専門医が講演した。

美容医療は一般的な病気の治療とは違い、公的医療保険が適用されないものが多い。厚生労働省が承認していない治療の場合は規制が厳格で、医師による自由診療となる。このため、安全性や有効性が検証されていない未承認の治療を受けて問題が発生しても、十分な対応や補償が必ずしも受けられないなどの課題があるという。

講座は、誤解や偏見の多い美容医療について正確な知識の普及を目的に、神戸大医学部付属病院美容外科が主催した。杉本美容形成外科(同市中央区)の杉本庸副院長は、表情をつくる筋肉が原因のしわに対し、「ボツリヌストキシン」という神経伝達を阻害する物質を使い、筋肉の動きを抑える治療で改善された例を紹介。「注射を打つ部位や量によって効果が異なり、専門的な知識や経験が必要だ」と指摘し、医師選びの重要性を強調した。さらに、「国内で承認されていない製剤を

女性の薄毛など例に



美容医療について講演する一瀬晃洋診療科長＝神戸市中央区楠町7

使っているにもかかわらず、患者に説明していない病院もある」として注意を呼び掛けた。

女性の男性型脱毛症の治療については、神戸アカデミアクリニック(同市中央区)の小西和入院長が説明。薄毛の原因として最も多く、全女性の約1〜2割が相当する▽男性ホルモンが原因ともいわれ、30代以降の発症が多い▽症状は全体的に薄くなるなどの特徴について紹介した。

続いて、休んでいる毛根を成長させる薬や、男性ホルモンの作用を弱める薬を使う治療法などがあり、これらを受けた女性の6〜7割程度が改善しているとして「年齢のせいだと諦めないでほしい」と訴えた。

神戸大医学部付属病院美容外科の一瀬晃洋診療科長は「外面の回復によって社会生活に喜びと力を取り戻すという、心理面に対する効果が重要だ」と、美容医療の意義について言及。課題として、技術の確立や教育制度の整備、モラルの向上などを挙げた。

(金井恒幸)